ルテニウム錯体型 N 端標識試薬を用いた Thermus thermophilus HB8 由来

の複合タンパク質の解析法

Determination method of conjugated proteins from *Thermus thermophilus* HB8 using ruthenium complex as an *N*-terminal labeling reagent

伊藤彰厚^{1,2}, 岡村高明¹, 山本 仁^{1,2}, 上山憲一¹

Akihiro Ito^{1,2}, Taka-aki Okamura¹, Hitoshi Yamamoto^{1,2}, Norikazu Ueyama¹

(¹阪大院理,²理研播磨)

(¹Grad. Sch. of Sci., Osaka Univ., ²Riken Harima Inst.)

e-mail: a-ito@chem.sci.osaka-u.ac.jp

タンパク質のN端配列はタンパク質の同定のみ ならず、N末端のプロセシングを知る上でも重要な 情報となる。従来のプロテオミクスの分野における タンパク質のアミノ酸配列決定法としては、質量分 析(MS)を用いた peptide mass fingerprinting (PMF)や

peptide sequence tag (PST)法等が主流 である。これらの手法は、MS により タンパク質サンプルを自動測定しデ ータベース検索することで、それらを ハイスループットに決定できる。しか し、これら手法の場合、必ずしも正確 に N 端配列を決定できるわけではな い。

当研究室ではこれまでに、Chart 1 に示すルテニウム錯体型タンパク質 標識試薬を開発している。この試薬で Lys 側鎖が無保護のタンパク質を標識 し酵素消化することで、MS において <Ru>-CO 標識ペプチドが高感度で検 出され、N 端アミノ酸配列決定を正確 に行えることを示してきた¹⁾。しかし、 この場合、Lys 側鎖も標識されスペク トルが複雑になる。より容易に N 端 アミノ酸配列決定を行うため、Lys 側 鎖をグアニジル化により保護し N 端 のみを選択的に標識した。



[<Ru>-COO-NSu]Cl₂

Chart 1.





Figure 1. MALDI-TOF-MS spectra of <Ru>-CO-labeled fragment ions obtained by the chymotryptic digestion of lysozyme (a) without and (b) with guanidination.

Lys 側鎖が無保護のリゾチームを<Ru>-CO 標識すると、Figure 1a のように N 端 および Lys 残基を含む<Ru>-CO 標識ペプチドが得られた。一方、Lys 側鎖を保護した ものでは N 端ペプチドのみが得られ、スペクトルが簡単になった(Figure 1b)。この方 法をユビキチン、インシュリン、リゾチームからなるタンパク質混合物に応用するこ とで系中の全ての N 端フラグメントのみを選択的に検出でき、それらの N 端アミノ 酸配列を区別して決定できた(Figure 2)。

Thermus thermophilus HB8 由来の複合タンパク質を 2D-Native-PAGE で展開し、得られたスポットを 2D-SDS-PAGE で再分離した。得られたタンパク質成分に対し N 端 選択標識することで、複合体を構成する各々のタンパク質成分の解析を行った。



Figure 2. (a) Amino acid sequences of N-terminal <Ru>-CO-labeled lysozyme, ubiquitin, and insulin A- and B-chain. (b) MALDI-TOF-MS spectrum of <Ru>-CO-labeled fragment ions obtained by chymotryptic digestion of the protein mixture. K* in the amino acid sequences represents a homoarginine residue.

Reference

(1) T. Okamura et al., Chem. Lett., 2005, 34, 332-333.